

発刊にあたって

“Only One”で“No 1”の研究施設を目指して

このたび4月1日付で平和科学研究センター長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

ご承知のように、本学は「平和を希求する精神」を基本理念の第一に掲げ、その具現化に努めています。その一翼を担う研究機関がここ平和科学研究センター（平和科研）です。昭和50年に発足した平和科研には、これまで積み上げてきた経験と実績があります。それらの上に、また新たな実績を積み上げていかなければなりません。

「ヒロシマ」の理念を基軸としながらも、よりグローバルで普遍的な「平和」を追求し、その実現に努力したいと思っております。特に、二つの研究領域の拡充・深化に傾注し、それらの骨格をしっかりと形成したいと考えています。

その一つは、「ヒロシマ」の理念を基盤とした平和研究です。たとえば、原爆・被ばくに関わる研究、核兵器廃絶・軍縮に関する国際関係などです。いうならば、「ヒロシマ」の思想である「核なき世界」に関連する研究領域です。他方の研究領域は、グローバルイシューに関する平和研究です。たとえば、今日的に緊急性の高いテーマの一つである難民問題、移民問題などが挙げられます。それ以外では、平和学における「構造的暴力」に関わる途上国の諸問題、（貧困、平和構築など）、あるいは環境問題等が挙げられます。敢えて命名するならば、「ヒロシマ平和研究」、「グローバル平

和研究」ということになります。これら二つの看板をメインに、平和科研は今後、研究に邁進したいと考えています。この二つの研究領域に関しては、“Only One”で“No 1”であることを目指します。研究に関しては、先行研究を後追いするような研究のスタイルは採りません。これら領域に関しては、常にトップランナーでありたいと思います。トップランナーの先には、関連研究はあっても先行研究はそう多くはないはずです。“Only One”で“No 1”を追求した先には、「ヒロシマ発平和学」なる研究分野の確立があると確信しています。そのために、平和科研教職員一同、粉骨砕身努力いたします。

「核なき世界」の理念を基盤とする「ヒロシマ」の思想は、原爆被爆者の悲惨な原爆体験とそれに基づく反核兵器への信念、そしてその実現に向けた不断の努力によって、形成されました。核兵器禁止条約に対する日本政府の立ち位置が如何にあろうと、原爆被爆者が壇上で自身の体験を語ると拍手喝采を受け、多くの人の心を揺さぶります。そういった原爆被爆者と彼らの原体験に「ヒロシマ」は支えられているのです。同時に、そういった、いわば「恩恵」を、そう遠くない将来に「ヒロシマ」は失うこととなります。その前に、これからの「ヒロシマ」のあり方、その役割をアカデミズムの中でしっかり議論していきたいと思っております。それも、被爆地広島に立脚する私た

ち平和科学研究センターの使命の一つだと
考えています。

関係各位におかれましては、今後とも、
ご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお
願いたします。

平和科学研究センター センター長・教授
川野徳幸